

新型コロナウイルス感染症と教育政策

(一) 新型コロナウイルス感染症の発生

(1) 厚生労働省検疫所の情報サイト・FORTH (<https://www.forth.go.jp/topics/>) は、2019年12月31日、中国湖北省武漢市で検出された病因不明の肺炎の事例が WHO 中国事務所に通知されたこと、2020年1月3日現在、病因不明の肺炎患者、全部で44人が、中国の国家当局によって WHO に報告されていること、報告された44例のうち、11例は重症であり残りの33症例は安定した状態であること、報道によると、武漢にある関係する市場は環境衛生と消毒のために2020年1月1日に閉鎖されたことを知らせた。また、厚労省結核感染症課は、1月6日、各都道府県・保健所設置市・特別区衛生主管部(局)に宛てて、武漢市衛生健康委員会(Wuhan Municipal Health Commission)から、武漢市における非定型肺炎の集団発生について発表があったこと、当該肺炎の原因については調査中であり、現時点では不確定な部分が多いことから、武漢市に滞在歴があり呼吸器症状を発症して医療機関を受診した患者については、院内での感染対策を徹底するよう改めて管内医療機関へ周知方を求める等を内容とする文書を発出した(「中華人民共和国湖北省武漢市における非定型肺炎の集団発生に係る注意喚起について」)。

(2) 厚生労働省の「中華人民共和国湖北省武漢市における原因不明肺炎の発生について」(令和=2020年1月6日。資料源：https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08767.html 2020年9月14日閲覧。)は、次のように述べている(抄)。

「中華人民共和国湖北省武漢市において、昨年12月以降、原因となる病原体が特定されていない肺炎の発生が複数報告されてい(る)。……

1. 患者の発生状況など(令和2年1月5日時点。国立感染症研究所まとめ)

- ・発生数：59例の確定例(うち7例は重症)。死亡例なし。59例の発症日は2019年12月12日-29日の間。

- ・感染経路：不明。ヒト-ヒト感染の明らかな証拠はない。また、医療従事者における感染例も確認されていない。

- ・発生場所の疫学的な特徴：海鮮市場(華南海鮮城)と関連した症例が多い。当該海鮮市場は、野生動物を販売している区画もある。現在は閉鎖中。

- ・類似疾患の可能性：インフルエンザ、鳥インフルエンザ、アデノウイルス、重症急性呼吸器症候群(SARS)、中東呼吸器症候群(MERS)は否定されている。

2. 厚生労働省の現在の対応

- ・厚生労働省検疫所ホームページ「FORTH」における、渡航者への注意喚起

(<https://www.forth.go.jp/topics/20200106.html>)

- ・帰国者に対する現行の検疫体制の継続(日本への入国者に対し、サーモグラフィー等を用いて、発熱等の症状がないか確認を実施)

- ・自治体及び関係機関に対し、原因が明らかでない肺炎等の患者に係る、国立感染症研究所での検査制度について周知

(3) 厚生労働省健康局結核感染症課から各都道府県・保健所設置市・特別区衛生主管部(局)宛事務連絡(令和2年1月6日)「中華人民共和国湖北省武漢市における非定型肺炎の集団発生に係る注意喚起について」の抄は次の通り。

「令和元年 12 月、武漢市衛生健康委員会 (Wuhan Municipal Health Commission) から、武漢市における非定型肺炎の集団発生について発表がありました。当該肺炎の原因については調査中であり、現時点では不確定な部分が多いことから、武漢市に滞在歴があり、呼吸器症状を発症して医療機関を受診した患者については、院内での感染対策が徹底されるよう改めて管内医療機関へ周知をお願いします。/ また、疑似症定点医療機関において、武漢市に滞在歴がある原因不明の肺炎患者を診察した際には、感染症発生動向調査における疑似症サーベイランスに基づき、国立感染症研究所(National Institute of Infectious Diseases)で検査を行うことが可能ですので、積極的に検討いただくよう管内医療機関へ周知願います。」

(4) 山崎學の「新型コロナウイルス騒動」は、もう少し立ち入って、次のように述べている。

「2019年11月17日、中国湖北省で新型コロナウイルスの最初の症例と思われる 55歳の住民が発症した。中国当局により感染症情報は秘匿され、11月下旬には39~79歳の男女9人が感染し、12月31日には266人に達していたが、同日、中国当局は「原因不明のウイルス性肺炎」で27人が発症したと公式に認めた。医療現場では12月30日、武漢中心病院の女性医師が肺炎の原因を「重症急性呼吸器症候群(SARS)コロナウイルス」と判断した検査報告書を見て危機感を抱き、その写真を知人の医師に送信、8人の医師がグループチャットに転送し情報が拡散した。しかし、警察当局は「デマを流した」としてこの8人を処分し口止めした(3月14日産経新聞)。この報告書は北京の民間機関が遺伝子情報を分析したもので検査の一部に誤りがあり、似た遺伝子構造を持つSARSと判断されたという。以後、新型コロナウイルス感染症は中国全土に飛び火し、春節と相まって世界的な大流行に発展した。

発生源については武漢疾病対策予防管理センターからのウイルス漏出、中国科学院武漢ウイルス研究所で人工的に組み込まれたウイルス漏出、武漢の華南海鮮卸売市場で売られている動物由来からの感染と諸説入り乱れているが、真相は闇の中である。しかし、11月17日に初発感染があったとすれば中国政府の初動の遅れと情報秘匿は重く糾弾されなければならないことから、武漢ウイルスという表現が日本の国会議員らを中心に広がっている。中国系事務局長の時代からWHOは中国寄りのスタンスであったが、一帯一路で中国と緊密な関係にあるエチオピア出身の事務局長では、対応が後手に回り、結果として欧州全土が新型コロナウイルスに汚染されてしまった。欧州全土に感染が広がると、各国はマスクを中心とした医療品確保で自国の感染拡大防止に走り……国境封鎖が相次いでいる。戒厳令並みの外出禁止により生産活動は停止し、経済活動も停止状態に追い込まれ、収束した後の経済不況は予測できない状態にある。」(出典:日精協誌・第39巻第4号巻頭言・山崎學「新型コロナウイルス騒動」。山崎學は、公益社団法人日本精神科病院協会会長/医療法人社団山崎会サンピエール病院理事長・院長。http://www.arsvi.com/w/ym13.htm 2020年9月15日閲覧)。

(5) 閻麗夢 (えん れいむ) 博士、真実を明らかにするため米国に亡命

上記の山崎日精協誌巻頭言を裏付ける報道も複数見られる。

一つは、2020年7月10日の米国フォックスニュースの取材による。これによると、中国青島出身の閻麗夢が新型コロナウイルスの真実を明らかにするため、同年4月、米国に亡命した。博士は、2019年12月31日、上司でWHOの顧問であるレオ・プーン教授の指示を受け、中国本土で発生したSARSに類似するウイルスの研究に着手した。同じ日に、中国疾病予防コントロールセンターの科学者でもある友人から「家族全員が感染した事例を確認した。すでにヒトからヒトへの感染が起きている」との情報を入手した。この情報を複数回、レオ教授に伝えたが、「中国共産党のレッドラインを踏むな」「我々が消される可能性がある」との警告を受けた。同じ情報を同大の著名なウイルス学者、マリク・ピーリス教授にも報告した。同教授も行動を起こさなかった。WHOのウェブサイトでは、ピーリス氏について

て「新型コロナウイルスによる肺炎の国際保健緊急委員会」の「アドバイザー」と記載している。「WHOは感染発生の早期、すでにヒトからヒトへの感染を把握していた」と同博士は主張している。しかし、WHOは2020年1月9日と14日、人間の間での感染を示す証拠がないと発表した。同博士は「WHOと中国政府が癒着しており、彼らが真実を隠すと予想していた」と述べた。4月28日、博士の米への逃亡後、中国にいる実家は警察から家宅捜査を受け、家族も聴取を受けた。香港大学はフォックスニュースに対して、彼女はすでに大学に所属していないとコメントし、ウェブサイトから同博士のページを削除した。」提供元：Balloon。翻訳編集・李沐恩。資料源：<https://news.so-net.ne.jp/article/detail/2010873/> 2020年9月16日閲覧。

(6) 広州の肖波涛教授、論文でコロナ19が中国実験室から流出の可能性を提起

中国の教授「コロナ、武漢市場近くの実験室から流出」とするニュース（中央日報/中央日報日本語版2020.02.17）は、次のように報じている。

「中国だけで1660人以上の死亡者を出した新型コロナウイルス感染症（コロナ19）が中国実験室から流出した可能性を提起した論文を中国の学者が発表していた。（2020年2月—北川補足）16日、明報や蘋果日報など香港メディアによると、中国広東省広州の華南理工大学生物科学と工程学院の肖波涛教授は今日6日にグローバル学術サイト「ResearchGate（リサーチゲート）」に論文を発表した。論文は新型コロナウイルスがコウモリから中間宿主を経て人に伝染した可能性よりも、湖北省武漢の実験室2カ所から流出した可能性を提起した。肖教授は武漢ウイルス研究所よりも**武漢疾病予防管理センターが震源地である可能性が高い**とみられると主張した。武漢ウイルス研究所は新型コロナウイルスが集中的に検出された華南水産市場から12キロメートル程度離れているのに対し、武漢疾病対策予防管理センターはわずか280メートルの距離にあるためだ（太字は引用者）。肖教授は実験室からの流出とみている理由について、新型コロナウイルスの天然宿主である「キクガシラコウモリ」は武漢から900キロメートル離れた雲南省・浙江省などに棲息していて、食用としては特に使われていない点を挙げた。また、武漢市政府の報告書や武漢市民の証言を総合すると、華南水産市場でこのようなコウモリは扱われていなかったという。反面、武漢疾病予防管理センターは2017年と2019年、実験用に多くのコウモリを捕まえた。2017年には湖北省・浙江省などで約600匹のコウモリを捕まえたが、この中には重症急性呼吸器症候群（SARS）ウイルスを持つキクガシラコウモリも含まれていた。当時、同センターの研究員は、勤務中にコウモリに噛まれたり尿をかけられたりしたと話した。同センターはコウモリの細胞組織を分離させてDNAとRNA配列などの研究を行ったが、ここで出た汚染されたゴミがウイルスの温床になったというのが肖教授の主張だ。初期に新型コロナウイルスに感染した患者が訪れた場所として知られている協和がん病院は武漢疾病対策センターとは通り一つを挟んだところにあつたと論文は伝えた。こうした中、科学技術部の呉遠彬局長は15日、「実験室でウイルスを研究する際に安全にさらに注意を傾ける内容の指導意見を発表した」と明らかにした。現在、肖教授とは連絡が取れず、該当論文はサイトから削除された状態だ。共産党の理論紙「求是」は、習近平首席が先月7日の政治局常務委員会会議でウイルス事態を予防・統制するために努力するよう指示したと16日、公開した。今回の公開で習主席が新型コロナウイルスを初期に把握してただけでなく、対処の指揮さえしていたと認めるようなもので、習主席の対応失敗責任論が強まっているとニューヨーク・タイムズ（NYT）は報じた。一方、台湾で新型コロナウイルスの感染によって初めて死亡者が出たと中国現地メディアが16日、伝えた。この患者はB型肝炎と糖尿にも罹患していた。中国本土を除く地域で死亡者が出てきたのはこれで5例目となる」。

資料源：© 中央日報/中央日報日本語版。2020.02.17 10:03

: <https://s.japanese.joins.com/JArticle/262641?sectcode=A00&servcode=A00> 2020年9月16日閲覧